

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、児童並びに地域の実態に即し、国際化、高度情報化の時代に対応できる知・徳・体の調和のとれた心豊かな児童の育成を目指し、次の目標の達成を図る。

・学ぶ喜び ・ふれあう喜び ・鍛える喜び をもつ子ども

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	～児童・保護者・地域から信頼され愛される学校～ ・基礎学力が定着し、豊かな心が育ち、いじめを許さない学校 ・全教職員が創意を發揮し、熱意と誠意をもって、協働している学校 ・家庭、地域、異校種、関係機関等と連携し、安全・安心で開かれた学校
○児童・生徒像	・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」が生まれ、将来の社会を生き抜く力の基礎が育っている児童 ・互いの気持ちを思いやり、人権を尊重し、規範意識をもった児童 ・進んで運動に親しみ、心身を鍛える健康な児童 ・大きな夢をもち、自分の課題を最後までやり遂げる児童
○教師像	・使命感、熱意、愛情をもち、社会性に富んだ教師 ・楽しい授業、よく分かる授業、主体的に学ぶ授業を工夫できる教師 ・安全、安心に配慮し、一人一人を大切にした教育を推進する教師 ・保護者や地域の人々と連携し、児童や保護者、地域から信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 基礎学力の定着と主体的に問題を解決する力の育成

4月に実施した区の学力調査では目標を大きく上回り通過率85%を達成できた。これまで苦手としていた漢字やローマ字等の語句に関する理解の定着が図られたことが大きな要因である。令和元年度から実施している「桜☆学習コンテスト」の取組が充実したことで、漢字や計算、ローマ字、都道府県名等、努力すれば必ず理解できる内容の定着が図られてと考えられる。

また、区の指導力向上中核校としての研究を通し、理科好きな児童が増えている。特に教師の指示が無くとも主体的に問題解決する姿が見られ始めている。今後も観察・実験やものづくりを中心として、科学的に考える力の育成を図る。MIMの取組では3rdステージ児童が減少してきた。

2 基礎体力の定着向上と健康な体の育成

昨年度はコロナ禍での運動制限や校庭改修工事のため、思い切って体を動かすことができない日が続いた。その結果、体力調査結果では、都平均を上回った種目が半分程度しかなかった。今後は、アスリート招聘等を通じて、体力の向上を図るとともに運動好きな児童を育成していく。

3 いじめがなく、毎日楽しく通える学校づくり

いじめはいつ、どこにでも発生するという意識を全教職員が共有するとともに、「いじめ防止対策委員会」において、毎月いじめに発展しそうな案件を洗い出し、学級担任等からの聞き取り対応を迅速に行っている。いじめの早期対応を図ることで、継続するいじめの件数0を目指していく。また「相談する相手がない」と回答した児童へフォローアップや、あいさつ運動を充実させ、児童アンケートや保護者アンケートの肯定的な回答率を高める。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	基礎体力の定着・向上（投力を柱として）と健康な体の育成			○		
3	思いやりの心の育成といじめ対策の強化					

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
①学習の基礎である「読む力」「書く力」「語句理解」の定着 ②基礎的な計算力の育成		①4月 通過率各教科 85% ②桜☆学習コンテストで漢字算数テスト最終合格者 95%							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象実施教科	頻度実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	AIドリルの活用	第3学年以上 主に算数	週2回以上	パワーアップタイムと放課後補習の併用でAIドリルを活用した復習問題や補習を実施	桜☆計算コンテストでの満点数	2回実施までに90%合格			
2	宿題以外の家庭学習の取組	第2学年以上 全教科	年間(2年は後期から)	家庭学習の習慣化と興味ある学習等で自ら課題設定し追究する力の育成を目的に ・宿題とは別に自ら考えた課題で家庭学習を行う ・模範となる自習ノートのデータベース化	①各学年の模範ノートをデジタル化してフォルダ管理 ②児童アンケート	①10月までに全学年10例以上を掲載 ②家で宿題以外の勉強をする児童70%			

3	桜☆学習 コンテスト	全学年 国語 算数 社会	7月 9月 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業前に漢字・算数・ローマ字・23区・都道府県名の課題を課す ・長期休業明けにテスト ・コンテスト期間内であれば何度でも再受験 	全員満点となるよう各回で3回以上実施	3回実施までに各95%が合格			
4	MIM-PM フォローアップ	第1学年 第2学年 国語	年間	<ul style="list-style-type: none"> ・「MIM-PM→フォローアップ指導→再アセスメント」のサイクルを定着 ・夏季自習教室で第1学年のみ「MIM-PM→フォローアップ指導」を実施 ・第2学年で、年間3回以上MIMアセスメントを実施 	MIM-PMの結果	<ul style="list-style-type: none"> ①7月までにサイクルを全学級実施 ②2月までに3rdステージを10%未満 ③第2学年7月までにMIMアセスメントを実施し3rdステージ児童には、夏季補習を実施 			
5	短作文の 取組	全学年	週1回	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科領域で低学年100文字程度、高学年200文字程度の短作文を習慣化 ・テーマや書き出し読む対象等を工夫し書く力を身に付けさせる 	学級担任からの聞き取り	年間30回以上短作文に取り組んだ学級数80%			
6	体験活動を通して、主体的に問題解決する児童の育成	全学年	年6回	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を通して主体的に学ぶ児童を育成するための研究授業の実施 	校内研究を通して	<ul style="list-style-type: none"> ①1月までに6回以上の研究授業を実施し、区内へ公開 ②自分で不思議を発見しなぞを解き明かそうとしていると回答する児童70% 			

重点的な取組事項－2		基礎体力の定着・向上（投力を柱として）と健康な体の育成			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
「投げる力」を重点として、体力の向上を図る。また、瞬発力を高めるための取組を実施する。	「ソフトボール投げ」の東京都Tスコアを第3学年以上で50以上				
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎体力の向上 (課題種目の改善)	<ul style="list-style-type: none"> ソフトボール投げ第3学年以上でTスコア50以上 全学年男女全種目のうち60%以上が都平均以上 	<ul style="list-style-type: none"> 投げ方教室 Tボールを主運動とした取組（感染対策） 長縄、短縄、持久走の取組期間を設定 			
教員の体育指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の体育実技研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2領域以上で実技研修会 自主研修会で体育研修実施 			

重点的な取組事項－3		思いやりの心の育成といじめ対策の強化			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止の徹底と早期発見、早期対応、早期解決、深刻ないじめ根絶 体験的な学習や地域と触れ合う行事をとおして、地域に見守られ、安心して通える学校とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 4か月以上継続するいじめの件数を0にする 児童アンケートで「安心して、楽しく学校に来ることができた」の肯定評価を90%以上にする 				

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめ・暴力行為の根絶	①いじめの疑いとして認知した件数を500件以上 ②いじめとして把握した場合児童と保護者の不安を年度内にすべて解消	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートで「相談できる人がいない」児童を全職員で共通理解（10月） アンケート内容を管理職がすべて把握 いじめ防止研修会を年5回以上実施 毎月委員会を開催し担任等からヒアリング 生活指導夕会を週1回実施 			
思いやりの心の育成	①保護者アンケートで「学校は思いやりの心を育て、いじめ防止に努力している」の肯定評価90% ②児童アンケートで「安心して、楽しく学校へ来ることができた」の肯定評価90%	<ul style="list-style-type: none"> 幼保小連携、小中連携の工夫（間接交流） 地域にかかわる体験活動や本物に触れる活動等を各学年2回以上実施。 学校の安全点検を毎月実施、危険個所の対応を即時行う 			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）